

# 2024年の大学卒業生 進路決定率87.4%！

昨年から0.9ポイント増！ 3年連続で上昇！

旺文社 教育情報センター 2024年12月17日

旺文社では毎年『大学の真の実力 情報公開BOOK』を刊行している。その調査データを基にして、2024年の大学卒業生の進路状況を分析した。2024年の進路決定率は87.4%で、2022年から3年連続で上昇した。

◎『大学の真の実力 情報公開BOOK』（旺文社／2024年9月刊）の調査データに基づく。

◎調査データは2023年4月～2024年3月までの大学卒業生の、2024年5月1日現在の情報。

◎学部系統分類は、旺文社の分類に基づく。

◎本稿での進路区分の基準は次の通り。

- ・「進学者」＝大学院研究科、大学学部、短期大学本科、専攻科、別科へ進学した者。
- ・「就職者」＝自営業主等と無期雇用労働者の合計。

（注）本稿では、有期雇用労働者（雇用契約期間1か月以上の者）・臨時労働者（雇用契約期間1か月未満の者）は就職者に含めていない。文部科学省『学校基本調査』が示す「就職者」、旺文社『大学の真の実力 情報公開BOOK』に掲載の「就職者」とは基準が異なる。

- ・「臨床研修医」＝医学科、歯学科の卒後臨床研修医。
- ・「その他」＝「専修学校・外国の学校等入学者」「進学準備中の者、就職準備中の者、その他」「不詳・死亡の者」。

## ■「進路決定率」——就職率だけではわからない卒業後の進路状況を数値化！

本稿における進路決定率は、以下の式で計算した。

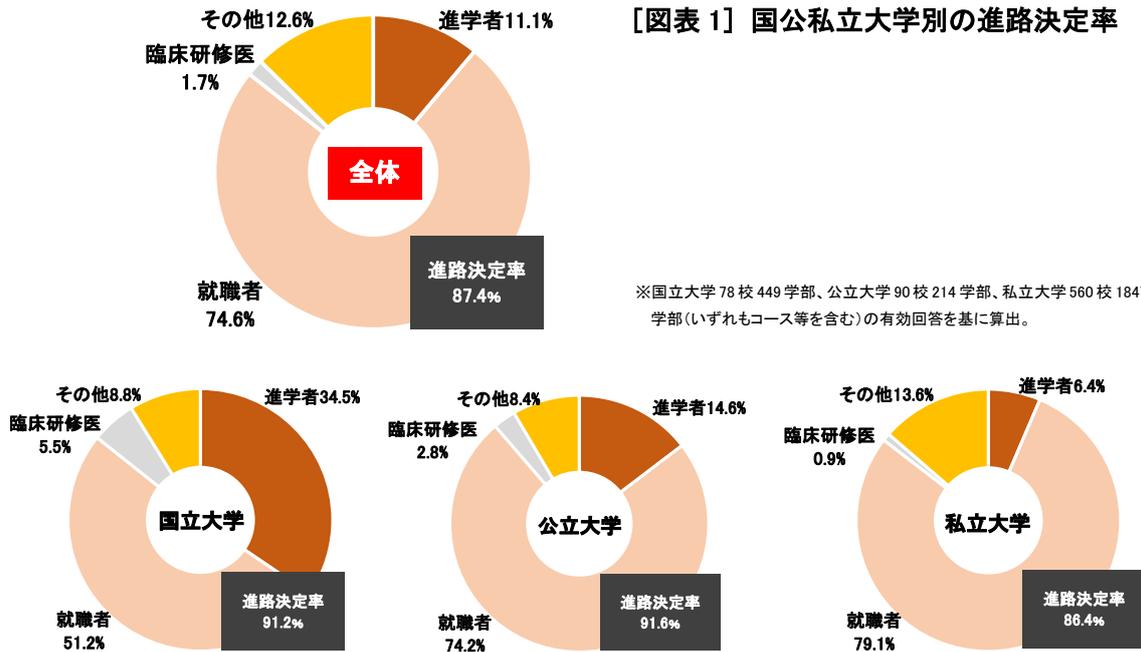
$$\text{進路決定率（\%）} = (\text{進学者数} + \text{就職者数}) \div \text{卒業生数} \times 100$$

※就職者数に臨床研修医を含む

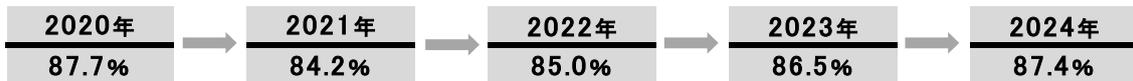
大学生の卒業後の進路状況を表す代表的な数値に就職率がある。ただ、算出するための計算式は、「就職者数÷就職希望者数」や「就職者数÷卒業生数」「就職者数÷（卒業生数－進学者数）」などさまざま。本稿では、大学院などへの進学も卒業後の進路のひとつとして考え、進学者、就職者（臨床研修医含む）を進路決定者とし、卒業生に占める割合を「進路決定率」として算出した。

なお、就職者は自営業主等と無期雇用労働者とし、有期雇用者と臨時労働者は含めていない。分母は希望者数ではなく、客観的な数字として卒業生数とした。

【図表1】国公立私立大学別の進路決定率



【図表2】進路決定率 直近5年間の推移



■2024年の進路決定率は87.4%。設置者別に見ると各々特徴が

本年の進路決定率は87.4%。昨年から0.9%上昇した。コロナ禍があつてダウンした2021年を直近の底として、2022年以降3年連続での上昇である。

設置者別に見ると、国立大学は進学者の割合が高いのが特徴だ。34.5%と、およそ3人に1人が進学した。国立大学は公立・私立大学と比較して、学生に占める理系の割合が非常に高い。理、工、農の3系統の学生だけで全体の半数近くを占める。これらの系統の学生は進学する者が多く、国立大学の進路決定率を押し上げている。また、国立大学は臨床研修医の割合が高いという特徴もある。

公立大学の進路決定率は、国立大学との差は僅かだが、例年最も高い。公立大学では看護・医療系統の学生が多く、卒業生の1割以上を占める。また、理、工、農など理系学生の割合も私立大学に比べて高い。資格取得ののち専門職に就く者や、進学者が多くいることが、進路決定率が高い背景にあると考えられる。

私立大学は就職者の割合が高い。私立大学では文系の学生が圧倒的に多いことが、その背景のひとつだ。また、私立大学では、その他の割合が高いのも目につく。国公立大学に比べて多様な学部・学科があり、学生の数が多くバラエティに富んでいることの裏返しと言える。なお、私立大学の学生は国公立全体の8割ほどを占めているため、私立大学の傾向が全体の数値に反映される。

### ■就職者の率は1.0ポイント上昇

図表3は2023年と2024年を比較したものである。就職者の率が1.0ポイント上昇した。進学者、臨床研修医はほぼ変わらない。その他が低下し、就職者の割合が増え、それに伴い進路決定率も上がったという構図である。

[図表 3] 進路決定率 前年との比較

全体	2023年	2024年
進路決定率	86.5%	87.4%
進学者	11.2%	11.1%
就職者	73.6%	74.6%
臨床研修医	1.7%	1.7%
その他	13.5%	12.6%

### ■私立大学の学部は進路決定率にバラツキが見られる

図表4は国公立大学別の進路決定率ゾーン別の学部数である。国公立大学は集計した学部の9割超が進路決定率80%以上に分布しており、安定した進路状況が見取れる。私立大学は、進路決定率80%を超えるゾーンに多数の学部があるものの、国公立大学と比べて分布は広く、進路決定率80%未満の学部が2割超を占めている。

### ■進路決定率の差は男女ではほぼ無し

性別に着目すると、男女で進路決定率の差はほとんど見られなかった。進路決定率は男女とも前年から1ポイント上昇した。ただ、進路の内訳を見ると、多少違いが見られる。男子は進学者の割合が高く、女子は就職者の割合が高い。男子は臨床研修医の割合が高いのも特徴だ。

次ページの図表6は、設置者別に文系、理系の進路決定率を表したものである。国立大学の理系は今年も進学者が半数を超えた。私立大学は文系、理系ともに就職者の割合が高い。

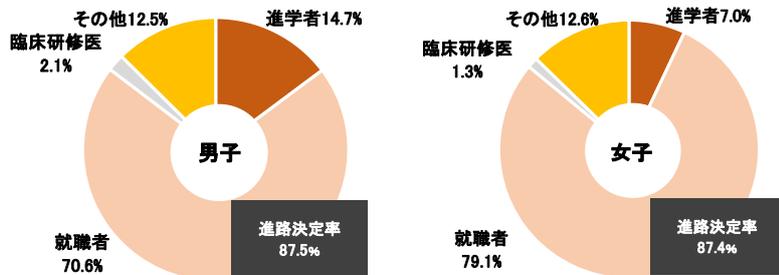
文系は国公立大学とも前年から進路決定率が上がり、特に私立大学は1.4ポイントも上昇した。

[図表 4] 国公立大学別  
進路決定率ゾーン別の学部数

進路決定率	国立大学 91.2%	公立大学 91.6%	私立大学 86.4%
90～100%	305	159	697
80～90%未満	104	39	757
70～80%未満	26	8	268
60～70%未満	10	6	82
50～60%未満	2	1	32
50%未満	2	1	11

※国立大学 78 校 449 学部、公立大学 90 校 214 学部、私立大学 560 校 1847 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

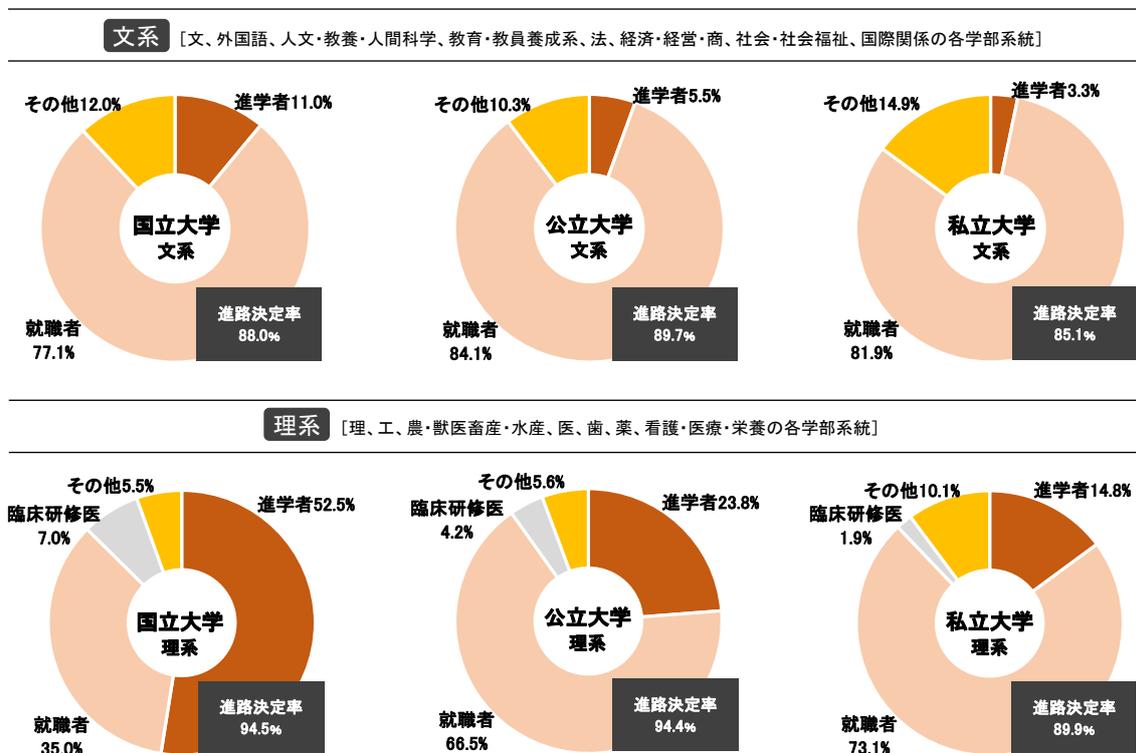
[図表 5]  
男女別の進路決定率



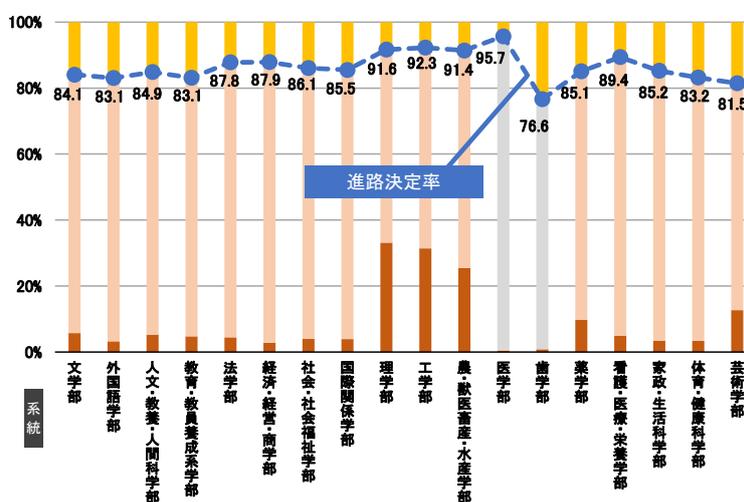
※国立大学 78 校 449 学部、公立大学 90 校 214 学部、私立大学 560 校 1847 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

**[図表 6] 国公立大学別  
文系・理系別の進路決定率**

※国立大学 78 校 449 学部、公立大学 90 校 214 学部、私立大学 560 校 1847 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。



**[図表 7]  
学部系統別の進路決定率**



※国立大学 78 校 449 学部、公立大学 90 校 214 学部、私立大学 560 校 1847 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

**■今年も医学部系統、工学部系統の進路決定率が高い**

進路決定率が全体 (87.4%) を上回った学部系統を率が高い順に並べると、医学部、工学部、理学部、農・獣医畜産・水産学部、看護・医療・栄養学部、経済・経営・商学部、法学部となった。医師国家試験の高い合格率や、進学者の多さから、医、工、理、農などの進路決定率は例年高い。

前年比は図表8のように、看護・医療・栄養学部以外の学部系統で進路決定率が上昇した。ただ、看護・医療・栄養学部も決して低い数字ではなく、どの学部系統でも進路を決める学生が多かったことを示している。

### ■規模が大きい大学の進路決定率が高い傾向が見られるが、実際はさまざま

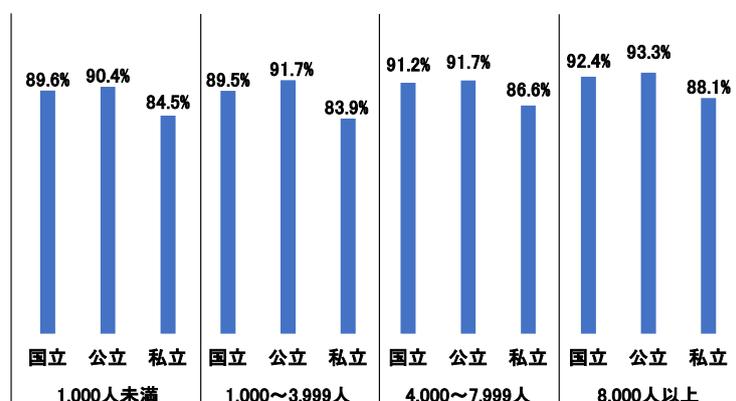
図表9は大学の規模別に進路決定率を集計したものである。全体的には、規模が大きい方が進路決定率が高い傾向が見られる。ただ、規模が大きくて名の通った大学でも進路決定率が80%に満たないところや、逆に、規模が小さくても進路決定率が100%のところもある。個々の状況はさまざまである。

[図表 8]  
学部系統別の進路決定率 前年との比較

学部系統	2023年	2024年	前年からの増減
文学部	82.6%	84.1%	1.5ポイント
外国語学部	81.1%	83.1%	2.0ポイント
人文・教養・人間科学部	83.2%	84.9%	1.7ポイント
教育・教員養成系学部	82.4%	83.1%	0.7ポイント
法学部	86.6%	<b>87.8%</b>	1.2ポイント
経済・経営・商学部	86.5%	<b>87.9%</b>	1.4ポイント
社会・社会福祉学部	84.5%	86.1%	1.6ポイント
国際関係学部	83.8%	85.5%	1.7ポイント
理学部	91.1%	<b>91.6%</b>	0.5ポイント
工学部	91.8%	<b>92.3%</b>	0.5ポイント
農・獣医畜産・水産学部	91.1%	<b>91.4%</b>	0.3ポイント
医学部	94.5%	<b>95.7%</b>	1.2ポイント
歯学部	73.2%	76.6%	3.4ポイント
薬学部	84.5%	85.1%	0.6ポイント
看護・医療・栄養学部	91.6%	<b>89.4%</b>	-2.2ポイント
家政・生活科学部	83.9%	85.2%	1.3ポイント
体育・健康科学部	81.9%	83.2%	1.3ポイント
芸術学部	80.2%	81.5%	1.3ポイント

※太字は全体の進路決定率  
87.4%を上回った系統。

[図表 9]  
大学の規模別(収容定員別)の  
進路決定率

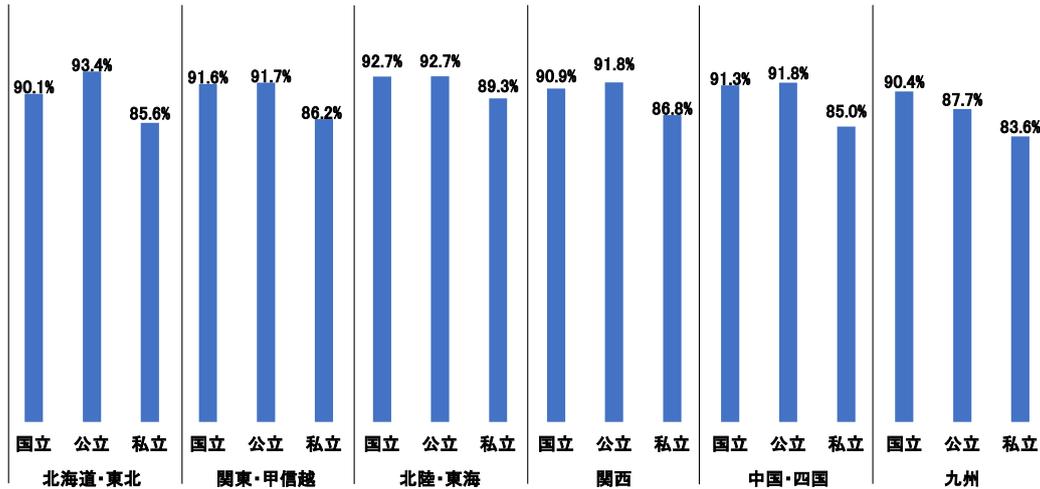


※国立大学 78 校 449 学部、公立大学 90 校 214 学部、私立大学 560 校 1847 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。

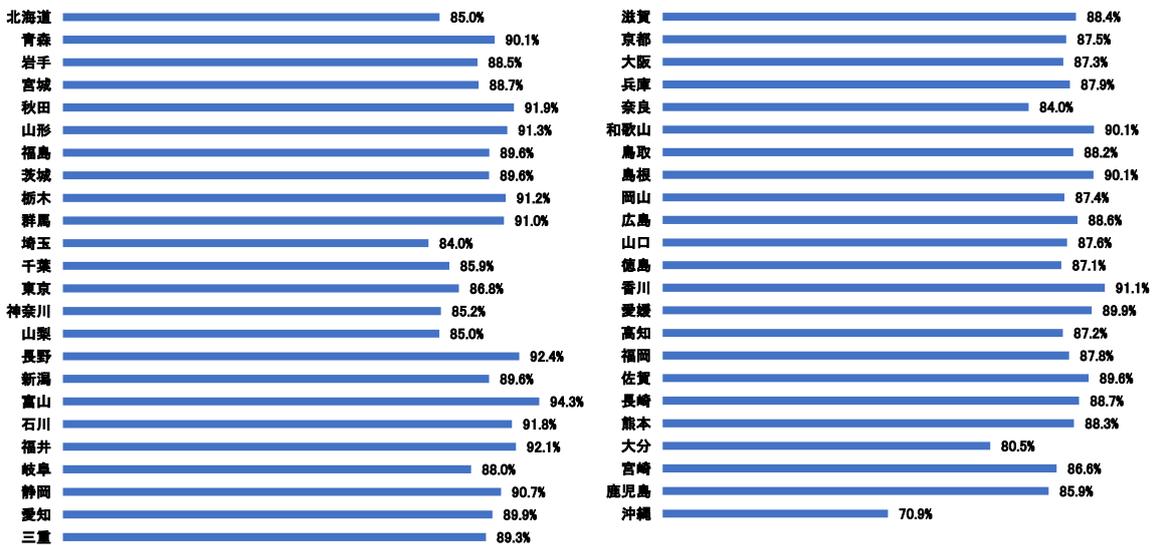
## ■エリア別では北陸・東海の進路決定率が高い

本年も北陸・東海の進路決定率が高い。都道府県別に見ると、富山県が94.3%で最高だった。以下、長野県、福井県、秋田県、石川県と続く。エリアによって地域産業の状況や設置されている大学数、国公私立別の状況などが異なることに注意する必要がある。

[図表 10] エリア別の進路決定率



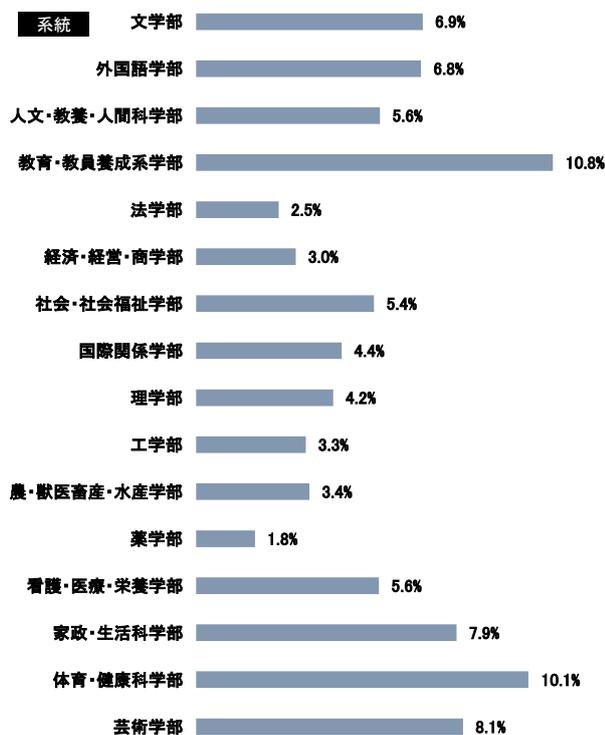
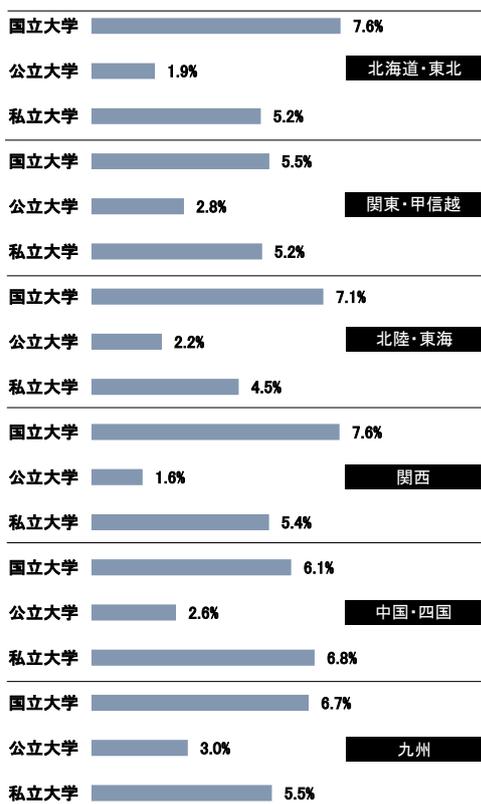
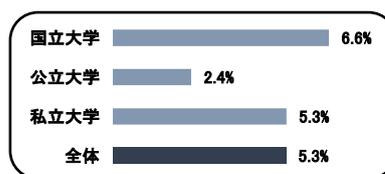
[図表 11] 都道府県別の進路決定率



※図表 10、11 は国立大学 78 校 449 学部、公立大学 90 校 214 学部、私立大学 560 校 1847 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。大学の本部所在地で集計。

**[図表 12]**  
**有期雇用労働、臨時労働に就いた者の割合**  
**(国公立大学別／エリア別／学部系統別)**

※(有期雇用+臨時労働)÷  
 (自営業+無期雇用+有期雇用+臨時労働)で算出。



※国立大学 78 校 449 学部、公立大学 90 校 214 学部、私立大学 560 校 1847 学部(いずれもコース等を含む)の有効回答を基に算出。エリア別は大学の本部所在地で集計。

**■有期雇用労働・臨時労働に就いた者は 5.3%。前年比で 0.3 ㊦低下**

図表12は、職を得た者のうち、有期雇用労働・臨時労働に就いた者の割合である。全体では前年の5.6%から5.3%と、やや低下した。学部系統別に見ると、割合が最も高かったのは教育・教員養成系学部。教員の「臨時的任用」などが背景にあると考えられる。

本年も進路決定率を設置者別や男女別、学部系統別など細かい項目ごとに検証したが、傾向がこれまでと大きく変わるような箇所は見られなかった。大まかな動きとしては、就職者の割合が高まったことで、進路決定率の上昇が見られた。よく言われる、人手不足の論調通りである。

(2024. 12 今村)